

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

柔道整復学科 昼間部

履正社医療スポーツ専門学校

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	基礎演習B		講師名 実務経験	竹内 希美子	
実務内容					
講義形態	講義・演習	学期	後期	分野	基礎分野
講義目的	医療介護健康福祉関連などが実践及び研究発表されている現場を学習フィールドとして、座学で学んだ理論を検証、研究する能力と、集団組織の中での自らの活躍の仕方を身につける。				
到達目標	知的好奇心を高揚させ、研究心を身につける。チームアプローチ・チームビルディングを理解し、実践できる。				
回数	講義計画				
第1回	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク				
第2回	講義計画、ガイダンス、アイスブレイク				
第3回	学習・発表計画作成(個人・グループ)				
第4回	柔道整復学における古来の手技的理論を聴講(手技療法)				
第5回	集団活動と組織協同、チームアプローチとチームビルディング(文化祭)				
第6回	公益社団法人大阪府柔道整復師会学術大会の基調講演聴講				
第7回	公益社団法人大阪府柔道整復師会学術大会の会員発表聴講				
第8回	医学知識を深める聴講と見学(行政解剖)				
第9回	医療介護健康福祉に関する講義を聴講(学術大会特別講演)				
第10回	卒業研究発表の聴講(校内学術大会)				
第11回	先人の技術・知識の聴講と実習(高崎先生)				
第12回	他学科チームアプローチとビルディング(体育祭)				
第13回	公益社団法人日本柔道整復師会近畿学会の基調講演聴講				
第14回	公益社団法人日本柔道整復師会近畿学会の会員・学生発表聴講				
第15回	市民講座や大学医科教育等の聴講と実習、医科学生生活動の模擬体験				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	オリエンテーション時に配布				
参考文献	オリエンテーション時に配布				
評価基準	履修研究記録簿の作成評価(70%)、プレゼンテーション(10%)、ディスカッション(10%)、レポート(10%)で評価する。				
履修上の注意	授業時間以外の履修記録簿の作成研究やプレゼンテーションの予習復習の実践を前提に評価を行う。				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 ^{単位} (15時 間)
科目名	解剖学演習 (海外研修読替)			講師名 実務経験	田中 雅博	
実務内容						
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	基礎解剖学(総論・骨・筋・血管・神経・内臓)を通じて、命の尊厳と医学の真理、生命の倫理を学び、将来医療人として、得た知識を還元するための演習から総合的知識を得る。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体名称を暗記するだけでなく、解剖演習より内部構造をイメージでき、その機能等を説明できる。 ・ 解剖学を通じて、命の尊厳と医学の真理、生命の倫理を理解する。 					
回数	講義計画					
第1回	ガイダンス					
第2回	解剖学演習総論① (体表解剖、触診)					
第3回	解剖学演習総論② (骨学)					
第4回	解剖学演習総論③ (筋学)					
第5回	解剖学演習総論④ (神経学)					
第6回	解剖学演習総論⑤ (内臓学)					
第7回	運動機能解剖学①					
第8回	運動機能解剖学②					
第9回	運動機能解剖学③					
第10回	運動機能解剖学④					
第11回	医療倫理(4原則)について①					
第12回	医療倫理(4原則)について②					
第13回	医療倫理と柔道整復師①(演習・発表)					
第14回	医療倫理と柔道整復師②(演習・発表)					
第15回	医療倫理と柔道整復師③(演習・発表)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	解剖学(全国柔道整復学校教会監修), プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論・運動器系)					
参考文献						
評価基準	筆記試験、出席状況、授業態度など					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	実践生理学 I (高齢者の生理学的特徴・変化)			講師名 実務経験	萩山満	
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	加齢による身体的変化とそれに伴う疾患などについて講義する					
到達目標	高齢者の身体的・精神的特徴、加齢による変化について理解できるようになる					
回数	講義計画					
第1回	細胞・組織の加齢現象					
第2回	加齢による循環器系の変化①					
第3回	加齢による循環器系の変化②					
第4回	加齢による呼吸器系の変化①					
第5回	加齢による呼吸器系の変化②					
第6回	加齢による消化器系の変化①					
第7回	加齢による消化器系の変化②					
第8回	加齢による消化器系の変化②					
第9回	加齢による消化器系の変化①					
第10回	加齢による運動器系の変化①					
第11回	加齢による運動器系の変化②					
第12回	加齢による感覚器系の変化①					
第13回	加齢による感覚器系の変化②					
第14回	高齢者特有の疾患①					
第15回	高齢者特有の疾患②					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	生理学・リーフレット 南江堂					
参考文献	イラストでまなぶ生理学 医学書院					
評価基準	評価試験(中間・期末の2回行う)					
履修上の注意	講義は配布プリントを用いて行うため、忘れず持ってくる					
備考						

2020（令和2）年度

講義計画（シラバス）

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	実践生理学Ⅰ		講師名	木村 竜一郎	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	基礎分野
講義目的	生理学を基礎として競技者に特化した生理的変化を学ぶことによって、柔道整復師としての実地的な知識を習得する。				
到達目標	競技者に起こる生理的変化の特徴を学習し、同時に一般的生理現象への理解を深める。				
回数	講義計画				
第1回	確認試験				
第2回	生理学の基礎（生理学第1章）				
第3回	体液の生理学（生理学第12章）				
第4回	血液の生理学①（生理学第2章）				
第5回	血液の生理学②（生理学第2章）				
第6回	循環の生理学①（生理学第3章）				
第7回	循環の生理学②（生理学第3章）				
第8回	呼吸の生理学①（生理学第4章）				
第9回	呼吸の生理学②（生理学第4章）				
第10回	消化と吸収①（生理学第5章）				
第11回	消化と吸収②（生理学第5章）				
第12回	栄養と代謝（生理学第6章）				
第13回	体温とその調節（生理学第7章）				
第14回	競技者の生理学的特徴・変化①（生理学別冊）				
第15回	競技者の生理学的特徴・変化②（生理学別冊）				
第16回	評価（到達度の確認）				
テキスト	全国柔道整復学校協会監修 生理学・生理学追加資料				
参考文献					
評価基準	評価試験100%				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	実践生理学Ⅱ(競技者の生理学的特徴・変化)			講師名 実務経験	萩山満	
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	基礎分野	
講義目的	運動状態での生命現象を対象にそのメカニズムを講義する					
到達目標	運動にともなう生理学的応答・適応に関する基礎的な知見を理解できるようになる					
回数	講義計画					
第1回	小児期から青年期の発育特性①					
第2回	小児期から青年期の発育特性②					
第3回	小児期から青年期の運動器系の発達と運動①					
第4回	小児期から青年期の運動器系の発達と運動②					
第5回	小児期から青年期の呼吸機能と運動①					
第6回	小児期から青年期の呼吸機能と運動②					
第7回	小児期から青年期の循環機能と運動①					
第8回	小児期から青年期の循環機能と運動②					
第9回	運動に関与する内分泌と代謝①					
第10回	運動に関与する内分泌と代謝②					
第11回	運動に関与する内分泌と代謝③					
第12回	発育期の運動不足と過運動の影響①					
第13回	発育期の運動不足と過運動の影響②					
第14回	運動と生活習慣病①					
第15回	運動と生活習慣病②					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	生理学・リーフレット 南江堂					
参考文献	イラストでまなぶ生理学 医学書院					
評価基準	評価試験(中間・期末の2回行う)					
履修上の注意	講義は配布プリントを用いて行うため、忘れず持ってくること					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	病理学概論 I			講師名	伊藤 彰彦	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期		分野	専門基礎分野	
講義目的	様々な病気の種類や成り立ちを大局的に理解する。					
到達目標	病気の原因や病態を正常と比較しながら概説できるようにする。					
回数	講義計画					
第1回	病理学・病因					
第2回	病理学・病因					
第3回	細胞障害・再生					
第4回	細胞障害・再生					
第5回	炎症					
第6回	炎症					
第7回	炎症					
第8回	炎症					
第9回	免疫					
第10回	免疫					
第11回	免疫					
第12回	循環障害					
第13回	循環障害					
第14回	先天異常・遺伝性疾患					
第15回	先天異常・遺伝性疾患					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	はじめの一步の病理学(羊土社)・病理学概論(医歯薬出版)					
参考文献						
評価基準	筆記試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	病理学概論Ⅱ			講師名	伊藤 彰彦	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期		分野	専門基礎分野	
講義目的	様々な病気の種類や成り立ちを大局的に理解する。					
到達目標	病気の原因や病態を正常と比較しながら概説できるようにする。					
回数	講義計画					
第1回	感染症					
第2回	感染症					
第3回	感染症					
第4回	環境因子・栄養					
第5回	環境因子・栄養					
第6回	腫瘍					
第7回	腫瘍					
第8回	腫瘍					
第9回	生活習慣病					
第10回	生活習慣病					
第11回	生活習慣病					
第12回	難病					
第13回	難病					
第14回	難病					
第15回	まとめ					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	はじめの一步の病理学(羊土社)・病理学概論(医歯薬出版)					
参考文献						
評価基準	筆記試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	一般臨床医学 I <基礎>		講師名	井上 敬夫	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	疾患の概念から臨床症状までしっかりと理解させるとともに、国家試験に対応できるようにする。				
到達目標	解剖学や病理学など他の科目と関連づけが行えるようにする。				
回数	講義計画				
第1回	呼吸器疾患(総論、肺感染症)				
第2回	呼吸器疾患(呼吸器機能障害、肺循環障害、肺腫瘍)				
第3回	呼吸器疾患(気管支、肺、胸郭系の変形及び形成障害)				
第4回	循環器障害(総論、心臓の疾患)				
第5回	循環器障害(不整脈各論、血圧異常、動脈疾患)				
第6回	循環器障害(静脈疾患、レイノー症候群)				
第7回	消化管疾患(総論、食道疾患、胃疾患)				
第8回	消化管疾患(腸疾患)				
第9回	肝胆膵疾患(総論、肝疾患)				
第10回	肝胆膵疾患(胆道疾患、膵疾患、腹膜疾患)				
第11回	代謝・栄養疾患(総論、糖代謝異常)				
第12回	代謝・栄養疾患(脂質代謝異常、尿酸代謝異常など)				
第13回	内分泌疾患(総論、下垂体疾患)				
第14回	内分泌疾患(甲状腺疾患)				
第15回	内分泌疾患(副腎疾患)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学 第3版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	一般臨床医学 I <基礎>		講師名	高折 洋	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	内科疾患を理解するうえで基礎となる、解剖、病態生理を理解記憶し、疾患に対する知識を一つ一つ身に着け、実践的な問題が解けるようにする。				
到達目標	国家試験に重点を置き、試験に悠々と合格できる実力をつける。				
回数	講義計画				
第1回	呼吸器疾患				
第2回	呼吸器疾患				
第3回	呼吸器疾患				
第4回	呼吸器疾患				
第5回	生理機能検査 循環器疾患				
第6回	循環器疾患				
第7回	循環器疾患				
第8回	循環器疾患				
第9回	消化管疾患				
第10回	消化管疾患				
第11回	肝胆膵疾患				
第12回	肝胆膵疾患				
第13回	肝胆膵疾患				
第14回	代謝疾患				
第15回	代謝疾患				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	一般臨床医学Ⅱ<臨床>		講師名	井上 敬夫	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	疾患の概念から臨床症状までしっかりと理解させるとともに、国家試験に対応できるようにする。				
到達目標	解剖学や病理学など他の科目と関連づけが行えるようにする。				
回数	講義計画				
第1回	血液疾患(総論、貧血)				
第2回	血液疾患(白血病、血友病)				
第3回	血液疾患(DIC、リンパ腫)				
第4回	感染症(総論)				
第5回	感染症(AIDS)				
第6回	アレルギー				
第7回	泌尿器疾患(総論、腎不全、腎炎)				
第8回	神経疾患(総論、脳出血、脳梗塞)				
第9回	神経疾患(認知症、アルツハイマー、パーキンソン病)				
第10回	神経疾患(ALS、ギラン・バレー症候群)				
第11回	筋疾患(重症筋無力症、筋ジストロフィー)				
第12回	代謝・栄養疾患(脂質代謝異常、尿酸代謝異常など)				
第13回	膠原病(総論、関節リウマチ、シェーグレン症候群)				
第14回	膠原病(SLE、全身性強皮症)				
第15回	総復習				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	一般臨床医学Ⅱ<臨床>		講師名	高折 洋	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門基礎分野
講義目的	内科疾患を理解するうえで基礎となる、解剖、病態生理を理解記憶し、疾患に対する知識を一つ一つ身に着け、実践的な問題が解けるようにする。				
到達目標	国家試験に重点を置き、試験に悠々と合格できる実力をつける。				
回数	講義計画				
第1回	内分泌疾患				
第2回	内分泌疾患				
第3回	内分泌疾患				
第4回	血液造血器疾患				
第5回	血液造血器疾患				
第6回	血液造血器疾患				
第7回	腎疾患				
第8回	腎疾患				
第9回	神経疾患				
第10回	神経疾患				
第11回	神経疾患				
第12回	神経疾患				
第13回	神経疾患 感染症				
第14回	膠原病				
第15回	膠原病				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	一般臨床医学 改訂第2版(医歯薬出版株式会社)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	外科学概論<総合>		講師名	榎木 英介	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期		分野	専門基礎分野
講義目的	外傷処置を専門とする柔道整復師に必要な外科領域の基本的知識を習得する。また応急処置に関わる救急処置法についても理解する。				
到達目標	外科学の概念の理解 救命救急の基礎的概念				
回数	講義計画				
第1回	外科学とは				
第2回	損傷				
第3回	炎症と感染症				
第4回	腫瘍／概念 成因 分類 良性腫瘍				
第5回	腫瘍／悪性腫瘍 発育様式 診断 治療				
第6回	ショック、輸血、輸液				
第7回	消毒と滅菌				
第8回	手術と麻酔				
第9回	移植と免疫				
第10回	出血と止血				
第11回	心肺蘇生				
第12回	脳神経外科疾患、甲状腺・頸部疾患				
第13回	胸壁・呼吸器疾患、心臓疾患				
第14回	心臓疾患、脈管疾患				
第15回	腹部外科疾患				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	外科学概論 改訂第4版 (南江堂)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020（令和2）年度

講義計画（シラバス）

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	整形外科学Ⅰ			講師名	松原康秀	
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	国家試験合格に必要な最小限の知識の獲得 実際の臨床に即した知識の活用					
到達目標	国家試験合格に必要な最小限の知識の獲得					
回数	講義計画					
第1回	整形外科総論					
第2回	整形外科診察法					
第3回	整形外科検査法					
第4回	整形外科治療法					
第5回	骨・関節損傷総論（骨折・脱臼・捻挫）					
第6回	感染性疾患					
第7回	骨・軟部腫瘍(悪性)					
第8回	骨・軟部腫瘍(良性)					
第9回	リウマチ病1（OA RA）					
第10回	リウマチ病2（結晶誘発性関節炎等）					
第11回	リウマチ病3（SNSA 骨粗鬆症等）					
第12回	先天性骨系統疾患					
第13回	骨端症・四肢循環障害					
第14回	神経麻痺と絞扼性神経障害					
第15回	全身性神経・筋疾患					
第16回	評価（到達度の確認）					
テキスト	社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 整形外科					
参考文献						
評価基準						
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	整形外科学Ⅱ<臨床>		講師名		
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門基礎分野
講義目的	柔道整復師として必要な整形外科学の知識を、教科書に準拠し、且つ過去の国家試験問題も参考にしながら、その内容を整理し、これを教授する。				
到達目標	学生の誰もが一定の整形外科学に関する知識を得られるように、内容の整理し、国家試験合格につづることを目標とする				
回数	講義計画				
第1回	整形外科学各論:骨および軟部組織の腫瘍				
第2回	整形外科学各論:骨および軟部組織の腫瘍				
第3回	整形外科学各論:骨および軟部組織の腫瘍				
第4回	整形外科学各論:骨端症				
第5回	整形外科学各論:四肢の循環障害				
第6回	整形外科学各論:神経・筋疾患				
第7回	整形外科学各論:神経・筋疾患				
第8回	整形外科学各論:神経・筋疾患				
第9回	整形外科学各論:神経・筋疾患				
第10回	身体各部の整形外科疾患:体幹の疾患				
第11回	身体各部の整形外科疾患:体幹の疾患				
第12回	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患				
第13回	身体各部の整形外科疾患:上肢の疾患				
第14回	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患				
第15回	身体各部の整形外科疾患:下肢の疾患				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	整形外科学 改訂第4版(南江堂)				
参考文献	随時、プリントにて配布				
評価基準	定期試験90%、学習態度(授業貢献度)10%				
履修上の注意	講義中に私語する者は教室から退出してもらう。				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	リハビリテーション医学 I (基礎)		講師名	池尾 忠思	
			実務経験		
実務内容					
講義形態	講義	学期		分野	専門基礎分野
講義目的	リハビリテーション医学の学習を通して、基礎医学の知識向上を図る。				
到達目標	リハビリテーション医学の学習を通して、臨床家として必要な基本的な知識を身につける。				
回数	講義計画				
第1回	リハビリテーションの概念 (語源・理念等)				
第2回	リハビリテーション医学 (分類・対象・障がい)				
第3回	リハビリテーション医学の基礎医学 (障がい学・廃用症候群等)				
第4回					
第5回	リハビリテーション医学の評価と診断 (評価と診断の違い等)				
第6回	リハビリテーション医学の評価と診断 (身体計測・筋力テスト)				
第7回	リハビリテーション医学の評価と診断 (関節可動域テスト等)				
第8回	リハビリテーション医学の評価と診断 (ADL評価)				
第9回	リハビリテーション医学の評価と診断 (中枢性運動障害の評価)				
第10回	リハビリテーション医学の評価と診断 (協調性テスト等)				
第11回	リハビリテーション医学の評価と診断 (失行の評価法)				
第12回	リハビリテーション医学の評価と診断 (失認の評価法)				
第13回	リハビリテーション医学の評価と診断 (心理評価テスト)				
第14回	リハビリテーション医学の評価と診断 (認知症の評価法)				
第15回					
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	教科書 (リハビリテーション医学 南江堂)				
参考文献	適宜プリント配布				
評価基準	評価試験 (四者択一または四者択二問題、25問程度)				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	リハビリテーション医学Ⅱ(臨床)		講師名 実務経験	池尾 忠思	
実務内容					
講義形態	講義	学期		分野	専門基礎分野
講義目的	リハビリテーション医学の学習を通して、基礎医学の知識向上を図る。				
到達目標	リハビリテーション医学の学習を通して、臨床家として必要な基本的な知識を身につける。				
回数	講義計画				
第1回	リハビリテーションの治療(理学療法)				
第2回	リハビリテーションの治療(作業療法)				
第3回	リハビリテーションの治療(運動療法の種類)				
第4回	リハビリテーションの治療(運動療法の内容)				
第5回	リハビリテーションの治療(装具・義肢・車椅子等)				
第6回					
第7回	リハビリテーションの治療(言語聴覚療法)				
第8回	リハビリテーション医学と関連職種				
第9回	リハビリテーションの実際(脳卒中)				
第10回	リハビリテーションの実際(脊髄損傷)				
第11回	リハビリテーションの実際(脳性麻痺)				
第12回	リハビリテーションの実際(その他の疾患)				
第13回					
第14回					
第15回					
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	教科書 (リハビリテーション医学 南江堂)				
参考文献	適宜プリント配布				
評価基準	評価試験(四者択一または四者択二問題、25問程度)				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 ^{単位} (15時 間)
科目名	リハビリテーション演習 (海外研修読替)		講師名	田中 雅博		
実務内容	実務経験					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	リハビリテーション医学での基礎知識から運動器障害に関わる回復訓練、治療法、予防法及びリハビリ計画を演習実践から総合的に学ぶ。					
到達目標	柔道整復術の応用としてリハビリ訓練等を実践することができる。					
回数	講義計画					
第1回	ガイダンス					
第2回	リハビリ評価・方法について					
第3回	リハビリ評価・方法について(演習・実技)					
第4回	リハビリ診断について					
第5回	リハビリ診断・方法について(演習・実技)					
第6回	運動機能リハビリ①(評価・計測について)					
第7回	運動機能リハビリ②(身体計測演習)					
第8回	運動機能リハビリ③(筋力テスト演習)					
第9回	運動機能リハビリ④(ADL評価演習)					
第10回	リハビリテーションでの治療法①(理学療法)					
第11回	リハビリテーションでの治療法②(理学療法)					
第12回	リハビリテーションでの治療法③(理学療法)					
第13回	リハビリでの目標設定と治療計画の立て方①					
第14回	リハビリでの目標設定と治療計画の立て方②(演習・発表)					
第15回	リハビリでの目標設定と治療計画の立て方③(演習・発表)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	教科書(リハビリテーション医学 南江堂)					
参考文献						
評価基準	筆記試験、出席状況、授業態度など					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道Ⅲ			講師名	中村 義毅	
				実務経験	○	
実務内容	柔道6段の実績から経験と技術を学生に指導					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門基礎分野	
講義目的	年間通じて、身体の仕組み(機能解剖学)と関節運動(運動学)を柔道を通じて、理解する。「柔よく剛を制する」の原理を体感し、「受・取」互いの動きを理論的に実践する。					
到達目標	柔道技を、クラスメイトと共に習得し、柔道の楽しさと仕組みを理解しながら、ケガの予防や防止するための動作確認を行うことができるようになる。					
回数	講義計画					
第1回	受身・打込の復習 背負い投げの説明 技の組立てを理解し出来るようになる					
第2回	受身・打込の復習 技を理解し、正しい投げ方が出来るようになる					
第3回	受身・払い腰の説明 技を理解し正しい投げ方が出来るようになる					
第4回	受身・払い腰の復習 体落しの説明・理解して正しい投げ方を練習する					
第5回	受身・体落しの正しい技のかけ方を練習し、投げられるようになる					
第6回	受身・大外刈りの説明 技を理解し、正しい投げ方が出来るようになる					
第7回	形、浮き落しの説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)					
第8回	形、浮き落しの練習 受・取の動作が出来るようになる(左)					
第9回	形、背負い投げの説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)					
第10回	形、背負い投げの練習 受・取の動作が出来るようになる(左)					
第11回	形、肩車の説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)					
第12回	形、肩車の練習 受・取の動作が出来るようになる(左)					
第13回	形、浮き落とし・背負い投げ・肩車の復習 形の礼法の説明と練習					
第14回	形、手技の復習 礼法の練習 約束乱取の練習					
第15回	テストに向けて、認定実技試験形式での練習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道Ⅳ			講師名	中村 義毅	
				実務経験	○	
実務内容	柔道6段の実績から経験と技術を学生に指導					
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門基礎分野	
講義目的	身体の仕組み(機能解剖学)と関節運動(運動学)を柔道を通じて、理解する。「柔よく剛を制する」の原理を体感し、「受・取」互いの動きを理論的に実践する。					
到達目標	「柔よく剛を制する」を実践する動作である“投げの形”の習得するため、動きの研究と練習に努める。					
回数	講義計画					
第1回	形、浮腰の説明 技を理解して、受・取の動作が出来るようになる(右)					
第2回	形、浮腰の練習 受・取の動作が出来るようになる(左)					
第3回	形、払腰の説明 技を理解して、練習、習得する(右)					
第4回	形、払腰の練習 技を理解して、練習、習得する(左)					
第5回	形、釣込み腰の説明 技を理解して、練習、習得する(右)					
第6回	形、釣込み腰の練習 技を理解して、練習、習得する(左)					
第7回	形、送り足払いの説明 技を理解して、練習、習得する(右)					
第8回	形、送り足払いの練習 技を理解して、練習、習得する(左)					
第9回	形、支え釣込足の説明 技を理解して、練習、習得する(右)					
第10回	形、支え釣込足の練習 技を理解して、練習、習得する(左)					
第11回	形、内股の説明 技を理解して、練習、習得する(右)					
第12回	形、内股の練習 技を理解して、練習、習得する(左)					
第13回	形、腰技の復習(技の名称と動作を確認し復習する)					
第14回	形、足技の復習(技の名称と動作を確認し復習する)					
第15回	テストに向けて、認定実技試験形式での練習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト						
参考文献						
評価基準	評価実技試験					
履修上の注意	出席率80%以上					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復各論Ⅲ		講師名	辻井 宏昭	
実務内容	実務経験				
講義形態	講義	学期	後期	分野	応用
講義目的	身体の機能的な解剖を学び、臨床に役立つ知識を身につける。				
到達目標	身体の各部位の機能解剖を理解し、実践できるようになる。				
回数	講義計画				
第1回	機能解剖(肩部)				
第2回	機能解剖(肘部)				
第3回	機能解剖(手部)				
第4回	機能解剖(股関節)				
第5回	機能解剖(股関節)				
第6回	機能解剖(膝)				
第7回	機能解剖(膝)				
第8回	機能解剖(足部)				
第9回	機能解剖(足部)				
第10回	頸椎の診察法				
第11回	腰椎の診察法				
第12回	姿勢評価				
第13回	歩行評価				
第14回	まとめ				
第15回	総復習				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学 理論編・実技編(南江堂)				
参考文献					
評価基準	筆記試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床 I			講師名	中谷 功	
				実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師の業務範囲である、上肢骨折・脱臼の概論から治療法までを学ぶ。					
到達目標	上肢の骨折、脱臼の基本的な知識と臨床的な知識の両面から理解し、実技に繋げる。					
回数	講義計画					
第1回	オリエンテーション、上腕骨骨幹部骨折					
第2回	上腕骨骨幹部骨折					
第3回	上腕骨遠位端部骨折／上腕骨顆上骨折					
第4回	上腕骨遠位端部骨折／上腕骨顆上骨折					
第5回	上腕骨遠位端部骨折／上腕骨外顆骨折					
第6回	上腕骨遠位端部骨折／上腕骨内側上顆骨折					
第7回	上腕骨遠位端部骨折／その他の骨折					
第8回	外傷性脱臼／前腕両骨後方脱臼					
第9回	外傷性脱臼／前腕両骨後方脱臼					
第10回	肘の脱臼／前腕両骨前方脱臼					
第11回	前腕近位端部骨折／橈骨頭、頸部骨折					
第12回	前腕近位端部骨折／肘頭骨折					
第13回	前腕骨骨幹部骨折／橈骨単独骨折					
第14回	前腕骨骨幹部骨折／ガレアジ骨折、尺骨単独骨折					
第15回	前腕骨骨幹部骨折／モンテギア骨折					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)					
参考文献	毎時限、資料を配布					
評価基準	定期試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床Ⅱ			講師名	中谷 功	
				実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	柔道整復師の業務範囲である、上肢骨折・脱臼の概論から治療法までを学ぶ。					
到達目標	上肢の骨折、脱臼の基本的な知識と臨床的な知識の両面から理解し、実技に繋げる。					
回数	講義計画					
第1回	前腕骨骨幹部骨折／前腕両骨骨幹部骨折					
第2回	前腕遠位端部骨折／コーレス骨折					
第3回	前腕遠位端部骨折／コーレス骨折					
第4回	前腕遠位端部骨折／スミス骨折					
第5回	前腕遠位端部骨折／バートン骨折					
第6回	手関節脱臼					
第7回	手関節脱臼					
第8回	手根骨骨折					
第9回	手根骨骨折					
第10回	手根骨骨折					
第11回	手根骨脱臼					
第12回	中手骨骨折					
第13回	中手骨骨折					
第14回	指節間関節、指骨骨折					
第15回	指骨骨折、復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学 理論編 改訂第6版(南江堂)					
参考文献	毎時限、資料を配布					
評価基準	定期試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床Ⅲ		講師名	福田 学		
			実務経験			
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	骨盤・下肢部における解剖学の復習を行いながら、骨折・脱臼の授業を行う。また、理解しやすくするために画像を使用したパワーポイントを作成し解りやすく場行を行う。					
到達目標	考えて理解することにより、患者さんを診る時に考えることができる医療人を目指し、臨床の場において役立つ学生を育てる。					
回数						
第1回	骨盤骨折 総論					
第2回	骨盤骨折 骨盤単独骨折					
第3回	骨盤骨折 骨盤骨輪骨折					
第4回	大腿骨近位端部骨折					
第5回	大腿骨近位端部骨折					
第6回	大腿骨近位端部骨折					
第7回	股関節脱臼 後方脱臼					
第8回	股関節脱臼 前方脱臼					
第9回	大腿骨骨幹部骨折					
第10回	大腿骨骨幹部骨折					
第11回	大腿骨遠位端部骨折					
第12回	大腿骨遠位端部骨折					
第13回	膝蓋骨骨折					
第14回	膝蓋骨骨折					
第15回	膝蓋骨脱臼					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)					
評価基準	評価試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床Ⅳ		講師名	福田 学		
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	骨盤・下肢部における解剖学の復習を行いながら、骨折・脱臼の授業を行う。また、理解して臨床的に考える力を養う。					
到達目標	考えて理解することにより、患者さんを診る時に考えることができる医療人を目指し、臨床の場において役立つ知識をつける。					
回数						
第1回	膝関節脱臼					
第2回	膝関節脱臼					
第3回	下腿骨近位端部骨折					
第4回	下腿骨近位端部骨折					
第5回	下腿骨骨幹部骨折					
第6回	下腿骨骨幹部骨折					
第7回	下腿骨骨幹部骨折					
第8回	下腿骨遠位端部骨折					
第9回	足関節脱臼骨折					
第10回	足関節脱臼骨折					
第11回	大腿骨遠位端部骨折					
第12回	足・足指骨骨折 距骨骨折					
第13回	足・足指骨骨折 踵骨骨折					
第14回	足・足指骨骨折 舟状骨骨折					
第15回	足・足指骨骨折 中足骨骨折・足指骨骨折					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)					
評価基準	評価試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床演習 I			講師名	中谷 功	
				実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	軟部組織損傷などでの治療技術を中心に学び治療法と包帯技法を身につけ、臨床に対応できる力を養う。					
到達目標	頻出症例の判断から検査法、治療法を身につけ実技試験で実践することが出来る。					
回数	講義計画					
第1回	頭部、顔面、顎関節(顎内障)					
第2回	胸肋、肋間筋、寝違え					
第3回	むちうち損傷、腕神経叢麻痺					
第4回	リュックサック麻痺、分娩麻痺					
第5回	斜頸、頸椎ヘルニア					
第6回	OPLL、胸郭出口症候群					
第7回	脊柱側弯					
第8回	脊柱分離症、すべり症					
第9回	腰椎ヘルニア					
第10回	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎					
第11回	肩関節周囲炎、石灰沈着性腱板炎					
第12回	野球肩					
第13回	野球肘、外側上顆炎					
第14回	肘内側側副靭帯、肘部管症候群					
第15回	前腕部軟部組織損傷、TFCC損傷					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学理論編 改訂第6版 柔道整復学実技編 (南江堂)					
参考文献	毎時限、資料を配布					
評価基準	定期試験					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅱ		講師名	中谷 功	
			実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習				
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	軟部組織損傷などでの治療技術を中心に学び治療法と包帯技法を身につけ、臨床に対応できる力を養う。				
到達目標	頻出症例の判断から検査法、治療法を身につけ実技試験で実践することが出来る。				
回数	講義計画				
第1回	ドケルバン病、ばね指				
第2回	手部・手関節の変形				
第3回	鼠径部痛症候群、大腿骨頭壊死				
第4回	ペルテス病、大腿骨頭すべり症、ばね股				
第5回	肉離れ、腸脛靭帯炎				
第6回	膝関節側靭帯損傷				
第7回	膝十字靭帯損傷				
第8回	半月板損傷、鷲足炎、ジャンパー膝				
第9回	オスグット病、分離膝蓋骨、タナ障害				
第10回	コンパートメント症候群、シンスプリント				
第11回	アキレス腱断裂、アキレス腱炎				
第12回	足関節捻挫、ショパール関節捻挫				
第13回	腓骨筋腱脱臼、足根骨症候群				
第14回	扁平足、外反母趾				
第15回	モートン病、第2ケーラー病				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学理論編 改訂第6版 柔道整復学実技編 (南江堂)				
参考文献	毎時限、資料を配布				
評価基準	定期試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅲ			講師名	西 正人	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	上腕骨や上肢帯の骨や関節などの解剖学を復習しながら、骨折や脱臼の授業を行う。また、国家試験の過去問に準じた説明も行い、国家試験に対しても対応できるようにする。					
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように学生を育てる。					
回数	講義計画					
第1回	鎖骨の解剖学、鎖骨骨折の発生、転位					
第2回	鎖骨骨折の症状、整復					
第3回	鎖骨骨折の固定法、合併症					
第4回	肩鎖関節の解剖学、肩鎖関節脱臼の分類					
第5回	肩鎖関節脱臼の発生、整復、固定法					
第6回	肩関節の解剖学、肩関節脱臼の分類					
第7回	肩関節脱臼の発生、症状					
第8回	肩関節脱臼の整復、固定法、後療法					
第9回	肩関節脱臼の合併症、反復性肩関節脱臼					
第10回	上腕骨近位端部の解剖学、上腕骨近位端部骨折の分類、発生、転位、症状					
第11回	上腕骨外科頸骨折の発生、転位、症状					
第12回	上腕骨外科頸骨折の整復、固定法					
第13回	上腕骨外科頸骨折の合併症、鑑別診断、後療法					
第14回	胸鎖関節の解剖学、胸鎖関節脱臼の発生、分類、症状					
第15回	肩甲骨の解剖学、肩甲骨骨折の転位、症状、合併症					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献						
評価基準	評価試験70%、小テスト30%					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	2 単位
科目名	柔道整復臨床演習Ⅳ			講師名	西 正人	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	胸郭や頭蓋や脊柱の骨や関節などの解剖学を復習しながら、骨折や脱臼の授業を行う。また、国家試験の過去問に準じた説明も行い、国家試験に対しても対応できるようにする。					
到達目標	身体の構造を把握し、リスク管理がしっかりできるような医療人になれるように学生を育てる。					
回数	講義計画					
第1回	胸郭(肋骨)の解剖学、肋骨骨折の発生					
第2回	肋骨骨折の転位、症状、合併症					
第3回	肋骨骨折の固定法					
第4回	胸郭(胸骨)の解剖学、胸骨骨折の発生					
第5回	胸骨骨折の転位、症状、合併症					
第6回	顎関節の解剖学、顎関節脱臼の分類、発生					
第7回	顎関節脱臼の症状、整復法、固定法					
第8回	頭蓋骨の解剖学、頭蓋骨骨折(頭蓋冠骨折の症状)					
第9回	脳神経、頭蓋骨骨折(頭蓋底骨折の症状)					
第10回	頭蓋骨骨折(顔面頭蓋骨折の症状)					
第11回	脊柱の解剖学、頸椎骨折(環椎骨折の症状)					
第12回	頸椎骨折(軸椎、第3～7頸椎骨折の症状)					
第13回	胸椎骨折の症状					
第14回	腰椎骨折の症状					
第15回	脊椎脱臼(環軸関節脱臼の症状)					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編、実技編					
参考文献						
評価基準	評価試験80%、小テスト20%					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	応用柔道整復概論Ⅳ		講師名	竹内 希美子		
実務内容	実務経験					
講義形態	講義	学期	後期	分野	専門分野	
講義目的	これまで学んできた分野の中で、特に自分自身が興味を持った内容について研究できるよう、その研究方法や、論文の書き方などを学ぶ。					
到達目標	卒業論文作成にあたってのテーマ選考や論文の書き方などの知識をつける。					
回数	講義計画					
第1回	ガイダンス					
第2回	論文の種類					
第3回	論文の書き方①					
第4回	論文の書き方②					
第5回	論文の書き方③					
第6回	論文読み合わせ①					
第7回	論文読み合わせ②					
第8回	テーマ選考①					
第9回	テーマ選考②					
第10回	先行研究の研究①					
第11回	先行研究の研究①					
第12回	先行研究の研究①					
第13回	仮説作成①					
第14回	仮説作成②					
第15回	卒論完成スケジュールの作成					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	教務課作成資料					
参考文献						
評価基準	仮説の提出とスケジュール案での評価					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習 I			講師名	中谷 功	
				実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	骨折・脱臼の診察法および整復、固定法を学習する。					
到達目標	骨折・脱臼の診察法(鑑別診断を含む)及び整復、固定ができるようになる。					
回数	講義計画					
第1回	診察法					
第2回	固定材料の種類と作成					
第3回	各関節の包帯基本法					
第4回	鎖骨骨折／診察、整復					
第5回	鎖骨骨折／固定法(リング固定)					
第6回	鎖骨骨折／固定法(絆創膏固定)					
第7回	肩鎖関節脱臼／診察 整復					
第8回	肩鎖関節脱臼／固定法					
第9回	肩関節脱臼／診察 整復					
第10回	肩関節脱臼／固定法 応用整復法					
第11回	肘関節脱臼・肘内障／診察 整復					
第12回	肘関節脱臼／固定法					
第13回	コーレス骨折／診察 整復					
第14回	コーレス骨折／固定法					
第15回	まとめ 総復習					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	柔道整復学理論編 改訂第6版、柔道整復学実技編(南江堂)					
参考文献	毎時限、プリントを配布					
評価基準	実技試験					
履修上の注意	毎時限、上下ケーシー白衣に更衣を済ませておくこと					
備考						

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅱ		講師名	中谷 功	
			実務経験	○	
実務内容	臨床の経験を活かした実際の症例に対する問診、診察、施術、後療方法の演習・実習				
講義形態	実技	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	骨折・脱臼の診察法および整復、固定法を学習する。				
到達目標	骨折・脱臼の診察法(鑑別診断を含む)及び整復、固定ができるようになる。				
回数	講義計画				
第1回	上腕骨外科頸骨折／診察 整復				
第2回	上腕骨骨幹部骨折／固定法(ミッテルドルフ三角副子)				
第3回	手指部の骨折、脱臼／整復、固定(母指測固定)				
第4回	手指部の骨折、脱臼／整復、固定(小指測固定)				
第5回	肩関節腱板損傷／テスト法				
第6回	上腕二頭筋長頭腱炎 肘関節内側側副靭帯損傷／テスト法				
第7回	胸腰部損傷／固定法(絆創膏、さらし)				
第8回	大腿部肉離れ／テスト法 テーピング				
第9回	下腿部肉離れ／テスト法 テーピング				
第10回	膝関節ACL,PCL損傷／テスト法 テーピング				
第11回	膝関節MCL,LCL,MM,LM損傷／テスト法 テーピング				
第12回	アキレス腱断裂 下腿骨骨幹部骨折／診察 テスト法 固定法				
第13回	足関節捻挫／テスト法 テーピング 厚紙副子固定				
第14回	足関節捻挫／テスト法 テーピング 厚紙副子固定				
第15回	外反母趾 踵骨外反／診察 テーピング				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学理論編 改訂第6版、柔道整復学実技編(南江堂)				
参考文献	毎時限、プリントを配布				
評価基準	実技試験				
履修上の注意	毎時限、上下ケーシー白衣に更衣を済ませておくこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅲ		講師名 実務経験	辻井 宏昭	
実務内容					
講義形態	実技	学期	前期	分野	専門分野
講義目的	柔道整復の治療技術である整復操作や包帯技法を身に付け、臨床に対応できる力を養う。様々な整復法や固定法を知り、柔道整復師として今後の臨床に役立つ知識を身につける。				
到達目標	整復法や固定法を通じて、疾患別に適応する治療法を選択できるようになる。				
回数	講義計画				
第1回	体幹構造				
第2回	肋骨骨折・肋軟骨骨折の臨床的整復				
第3回	肋骨骨折・肋軟骨骨折の臨床的固定				
第4回	肋間筋損傷、胸部打撲の治療				
第5回	脊椎構造				
第6回	頸椎損傷・捻挫の固定法				
第7回	頸椎損傷・捻挫の後療と指導管理				
第8回	胸椎損傷の固定法				
第9回	胸椎損傷の後療と指導管理				
第10回	腰椎損傷の固定法				
第11回	腰椎損傷の後療と指導管理				
第12回	いろいろな固定①(厚紙副子)				
第13回	いろいろな固定②(厚紙副子)				
第14回	いろいろな固定①(すだれ副子)				
第15回	いろいろな固定②(すだれ副子)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	柔道整復学 理論編・実技編 (南江堂)、包帯固定学				
参考文献					
評価基準	実技試験				
履修上の注意	毎時限、上下ケーシー白衣に更衣を済ませておくこと				
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復 学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復基礎実習Ⅶ		講師名 実務経験	中西 正	
実務内容					
講義形態	実技・実習	学期	後期	分野	専門分野
講義目的	運動器リハビリテーションに関する内容を習熟し、理解を深める。				
到達目標	整形外科的徒手検査の実践およびリハビリに関する知識を身につける。				
回数	講義計画				
第1回	運動器リハビリテーション／骨折				
第2回	運動器リハビリテーション／骨折				
第3回	運動器リハビリテーション／捻挫				
第4回	運動器リハビリテーション／上肢の損傷				
第5回	運動器リハビリテーション／上肢の損傷				
第6回	運動器リハビリテーション／上肢の損傷				
第7回	運動器リハビリテーション／下肢の損傷				
第8回	運動器リハビリテーション／下肢の損傷				
第9回	運動器リハビリテーション／下肢の損傷				
第10回	整形外科的徒手検査 実践 (上肢)				
第11回	整形外科的徒手検査 実践 (上肢)				
第12回	整形外科的徒手検査 実践 (下肢)				
第13回	整形外科的徒手検査 実践 (下肢)				
第14回	整形外科的徒手検査 実践 (体幹)				
第15回	整形外科的徒手検査 実践 (体幹)				
第16回	評価(到達度の確認)				
テキスト	リハビリテーション医学 改訂第4版(南江堂)				
参考文献	参考資料をプリントにて随時配布する				
評価基準	筆記試験、実技試験				
履修上の注意					
備考					

2020(令和2) 年度

講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	柔道整復総合演習 I			講師名	青木 孝至	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	講義	学期		分野	専門分野	
講義目的	競技者の身体的特徴や外傷・障害の発生メカニズムを学ぶことで、スポーツ現場における外傷・障害発生の予防を検討する。					
到達目標	外傷・障害に関する理論を理解し、予防に必要な技術を身に付ける。					
回数	講義計画					
第1回	1. 運動生理学の概要－1(運動とエネルギー代謝・骨・筋肉)					
第2回	1. 運動生理学の概要－2(運動と呼吸・循環・ホルモン)					
第3回	2. 競技者の外傷予防概論－1(外傷の発生要因)					
第4回	2. 競技者の外傷予防概論－2(外傷の予防対策)					
第5回	3. 外傷予防の為の実技－1(関節弛緩性とタイトネステスト)					
第6回	3. 外傷予防の為の実技－2(アライメント測定)					
第7回	3. 外傷予防の為の実技－3(アイシングの方法と実際)					
第8回	3. 外傷予防の為の実技－4(ストレッチングの方法と実際)					
第9回	3. 外傷予防の為の実技－5(スポーツマッサージの方法と実際)					
第10回	3. 外傷予防の為の実技－6(スポーツテーピングの方法と実際)					
第11回	3. 外傷予防の為の実技－7(筋力トレーニングの方法と実際)					
第12回	4. 種目別の外傷予防－1(柔道)					
第13回	4. 種目別の外傷予防－2(水泳・バスケットボール)					
第14回	4. 種目別の外傷予防－3(サッカー)					
第15回	5. 成長期及び高齢者の外傷予防					
第16回	評価(到達度の確認)					
テキスト	競技者の外傷予防(医歯薬出版株式会社)					
参考文献						
評価基準	記述式評価試験 60点以上:可 70点以上:良 80点以上:優					
履修上の注意						
備考						

2020(令和2) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	応用体験実習			講師名	辻井 宏昭	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実習	学期	前期	分野	専門分野	
講義目的	治療や患者の対応を直接経験することで、教室で学んだ理論を検証する能力を身につける 接骨院全体の運営を経験することで、知的好奇心の向上を期する インフォームドコンセントと患者同意の反応の理解					
到達目標	安全な領域で患者への施術、医療材料、医療機器の対応ができる。 理想的な患者の対応が可能で、患者誘導と支援に最大の配慮が行える。					
回数	講義計画					
第1回	指導者からの指示を受けずに、医療機器材料等の準備・片づけの実践①					
第2回	指導者からの指示を受けずに、医療機器材料等の準備・片づけの実践②					
第3回	安全な領域での患者へ処置、施術①					
第4回	安全な領域での患者へ処置、施術②					
第5回	インフォームドコンセントと患者同意の実践①					
第6回	インフォームドコンセントと患者同意の実践②					
第7回	医療介護融合を観点においた患者への対応①					
第8回	医療介護融合を観点においた患者への対応②					
第9回	多職種連携の実践①					
第10回	多職種連携の実践②					
第11回	施術録への記載方法					
第12回	発表のプレゼンテーション手法①					
第13回	発表のプレゼンテーション手法②					
第14回	指導管理とや経過観察の留意点①					
第15回	指導管理とや経過観察の留意点②					
第16回						
テキスト	なし(必要資料を適時配布)					
参考文献	柔道整復理論書、柔道整復実技書、機能訓練指導書、関係法規、社会保障制度と職業倫理					
評価基準	実習簿の内容評価(50%)、症例発表プレゼンテーション(50%)					
履修上の注意	100%の出席を要する					
備考	履修内容:安全な領域で患者へ直接施術を行う。安全な領域で、患者への医療材料や医療機器を実践できる。指導者と患者の対応を観察し、症例としてまとめ、実習簿に記録、記載することができる。					

2020(令和2) 年度 講義計画(シラバス)

対象学科名	柔道整復学科	学科	対象学年	2 年	単位数	1 単位
科目名	臨床評価実習			講師名	田中 雅博	
				実務経験		
実務内容						
講義形態	実習	学期		分野	専門分野	
講義目的	これまでの得た座学と実習の知識と技能を実でき、理解できている。 患者の対応に必要な基本知識と技能を実践できる。					
到達目標	臨床実習で学んだ経験や知識を患者へ医療サービスとして具体的に提供できる。 患者安全医療安全など、リスクマネジメントが徹底できる。 到達までの行動を評価し、評価をもとにしたフィードバックを行う。					
回数	講義計画					
第1回	開院前の準備と行動					
第2回	助手と受付との連絡調整および打ち合わせ					
第3回	インフォームドコンセントと患者同意の実践確認、徹底					
第4回	再診患者誘導と初診患者誘導の確認					
第5回	再診患者の経過聴取、初診患者の診察手法					
第6回	安全な領域による鑑別検査					
第7回	医用画像観察装置等による客観的評価手法					
第8回	検査結果と根拠と傷病名告知					
第9回	救急を要する患者への対応と行動					
第10回	医接連携などを必要とする対応、手続き					
第11回	多職種連携の実践と患者へのアドバイス					
第12回	傷病に対する処置手法					
第13回	安全な領域での後療手技や回復療法の実践					
第14回	次回受診までの指導管理の徹底					
第15回	施術録の記載と療養費支給申請書の作成					
第16回						
テキスト	なし(必要資料を適時配布)					
参考文献	柔道整復理論書、関係法規					
評価基準	実習簿の内容評価(50%)、終了後口述面接(50%)					
履修上の注意	100%の出席を要する					
備考	履修内容:指示がなくても接骨院施術開始のハード、ソフトの準備ができる。指示がなくても、施術開始前のハード、ソフトのリスクマネジメントの徹底ができる。指示を受けて、安全な領域で患者対応の実践ができる。					